

設問

次の文章を読み、この文章において、まず、筆者が主張していることを二〇〇字程度に要約しなさい。次に、筆者の意見を踏まえてこの問題についてのあなたの考えを論述しなさい。全体の字数は八〇〇字以内とします。

(社説) スマホ新規制 競争と安全の両立を

スマートフォンのアプリの流通をめぐり、基本ソフトを握るアップルやGoogleに新しい規制を課す議論が進んでいる。競争を促し、寡占の弊害を抑えることは望ましいが、スマホ上の安全性やプライバシー保護も利用者には重要だ。両立を図るルールが求められる。

政府のデジタル市場競争会議が、「モバイル・エコシステムに関する競争評価」の最終報告をまとめた。アップルのiPhoneを念頭に、自社の「ストア」以外からもアプリを入手可能にするよう義務づける規律を導入すべきだと結論した。

基本ソフトの大手が、アプリ上で自社の決済システムの利用を強制することを禁止する方針なども盛り込んだ。早ければ来年の通常国会への法案提出を目指すという。

議論では、会議側が、現状では競争圧力が働かず、アプリ開発者が支払う手数料が高止まりしている可能性がある指摘した。一方アップルは、ストアを自社のものに限り、アプリを厳格に審査することで安全が守られていると反論した。意見公募では、消費者団体も安全性を懸念する声を寄せた。

最終報告は、自社ストア以外での配布でも、安全性やプライバシーの確保が重要だと述べている。具体策としては、他社のストア自体をアップルが審査して自社ストアで配布したり、スマホにあらかじめ導入したりする手法を例示した。ストアを経ずにブラウザから入手する方法は、義務化を見送った。

スマホは様々なサービスの入り口として定着しており、基本ソフト大手の影響力は極めて大きい。寡占が固定化しやすいネットの性質も踏まえれば、適切な競争を促進するルールは不可欠だ。アプリの選択肢が増えたり価格が下がったりすれば、消費者の利益になる。

ただ、スマホは「個人情報のかたまり」でもある。不正な動きをするアプリが回って安全性やプライバシーを損なったり、消費者が不安を抱いたりするようでは本末転倒だ。最終報告が例示するような手法で、実際に安全性が十分確保できるのか、さらに検証すべきだろう。

競争を促す面でも、新規制がどこまで現実的な効力を発揮できるかが問われる。Googleは今も自社ストア以外からのアプリ導入も認めているが、利用者の実際の入手経路はほとんどがGoogleのストアからだ。

開放を義務づけても、消費者が二社のストアを使い続けるなら、競争を高める効果は限られる。今後の法案づくりでは、競争促進と安全性確保の両面で実効性のある制度になるよう、熟慮しなければならぬ。